

III. 刊行報告書抄録

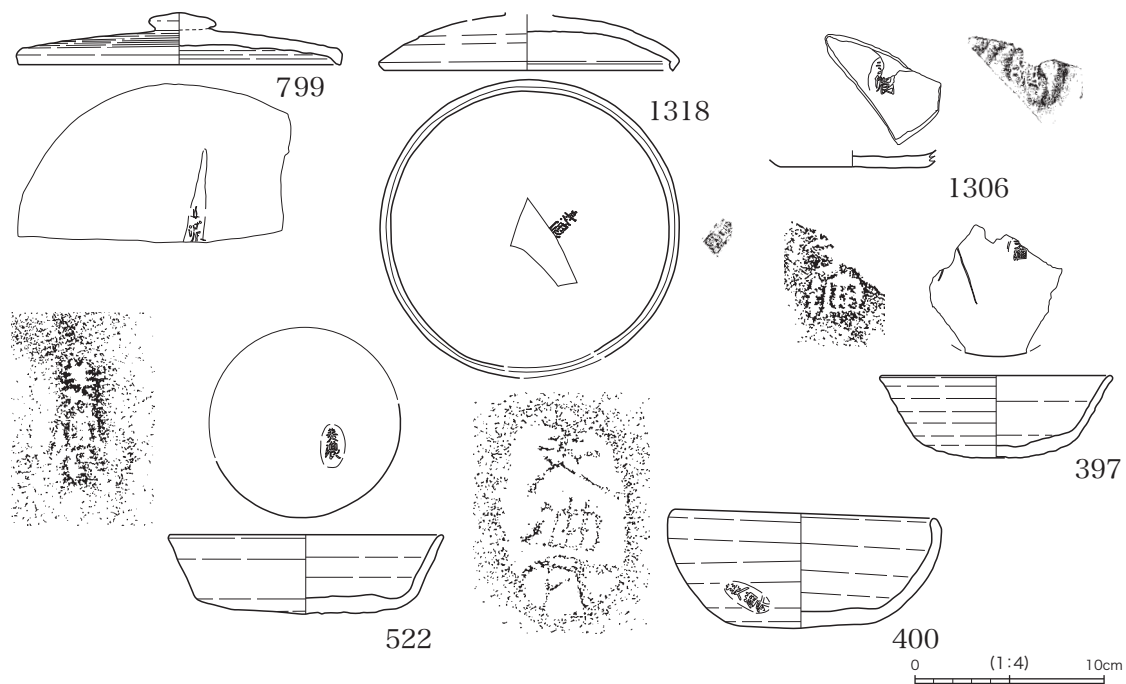
第209集 北丹波・東流遺跡

北丹波・東流遺跡は標高4～5m前後の沖積低地に立地する。遺跡の北西2km圏内、尾張大國霊神社近辺に古代尾張国の国府域が推定されている。また、遺跡の北東1km圏内に中世尾張守護所の一つ下津城跡が位置する。さらに、遺跡の東側に隣接して清須と岐阜を南北に結ぶ岐阜街道、2km南下した地点で分岐する西方へ延びる美濃街道は近世の主要街道として知られている。

これら3点に関わる成果が今回の調査によって明らかになった。まず、尾張国府域に関連する成果については、8世紀前葉を中心とする遺構と遺物がまとまって確認できたことがあげられる。国府の成立期に関わる資料として「美濃」施印須恵器が6点出土したことは、今回の調査におけるもっとも注目できる成果であろう。「美濃」施印須恵器については、生産が極めて限定的であったことと『続日本紀』に登場する国司笠朝臣麻呂との関係性が指摘されている。加えて、10数点におよぶ漆付着須恵器、製塩土器と畿内系土師器の大量出土は国府域の一角あるいは官衙関連の遺跡を想定させる。つぎに、岐阜街道に関連して、岐阜街道の前身として東海道と東山道を結ぶバイパス「東山道尾張路」を想定する見解がある。だとすると、本遺跡は尾張路の西に隣接する地区にあたり、駅家に関連する遺跡の可能性も指摘される。過去に隣接する地点で陶馬が採集されており、駅家の傍証といえよう。最後に、遺跡の北方に隣接する12世紀初頭の寺院関連と指摘されている下津北山遺跡がある。下津北山遺跡のように一辺50mにおよぶ大区画に比定できる溝かは別として、北丹波・東流遺跡は幅2m前後、深さ1m以上を測る大溝が各所で確認されている。高台付き皿の脚部、白磁の壺底部、方形陶硯など下津北山遺跡と共通する資料群は、一般集落跡と一線を画する評価に値する。

これら古代から中世の成果とは別に、古墳時代前期の水田、畑地を伴う生産遺跡が下層に存在する。幅1～2m前後、深さ1mを超える溝が南北方向を中心に確認された。土塁状の高まりを挟んで2条の溝が平行する地点もあり、基幹水路の可能性を指摘した。廻間Ⅲ式を中心とする時期に相当し、尾張平野の大規模水田開発の時期である。

(永井宏幸)



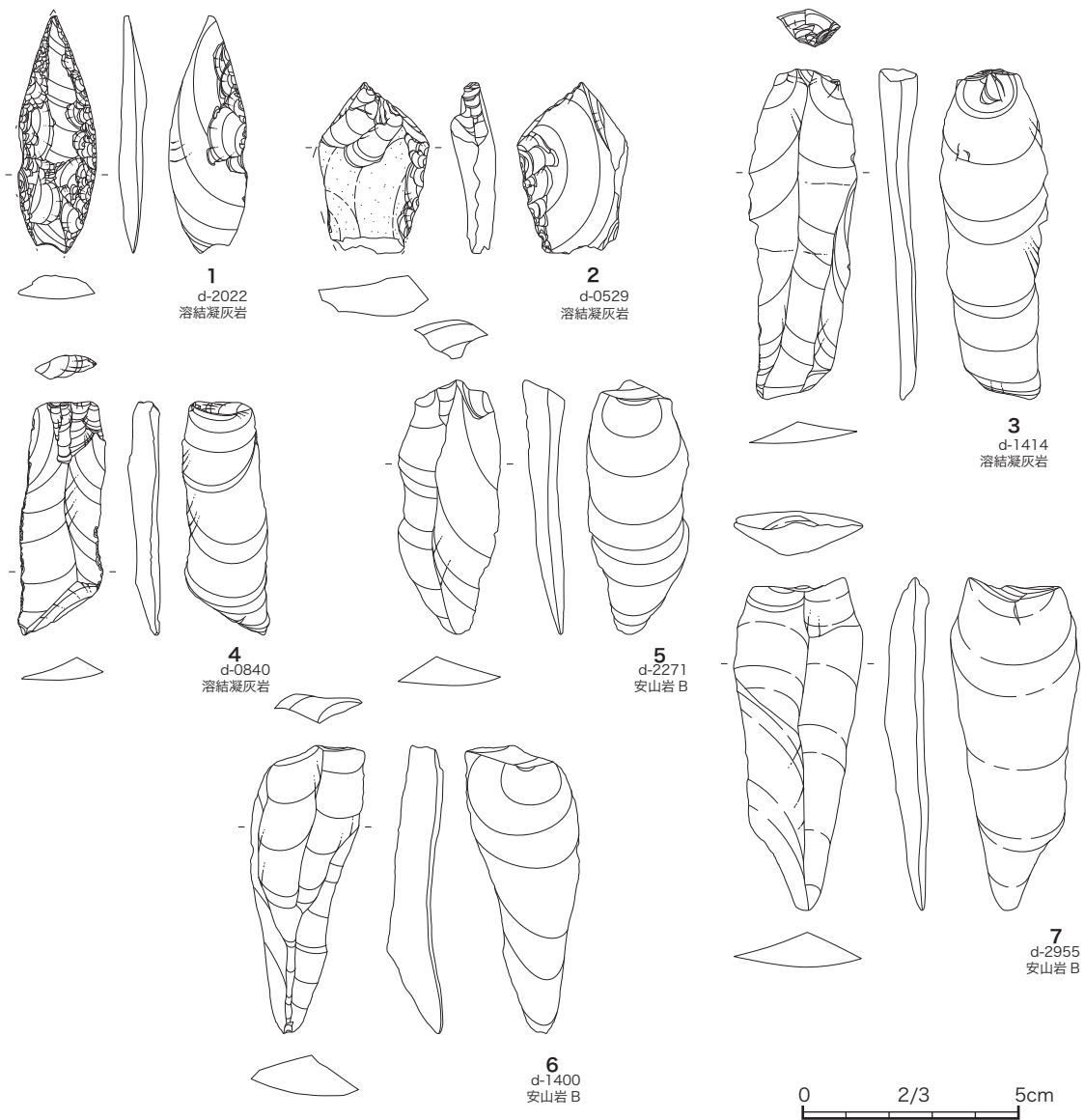
北丹波・東流遺跡出土「美濃」施印須恵器

報告書抄録

ふりがな	きたたんば ・ ひがしながれ								
書名	北丹波・東流遺跡								
副書名									
巻次									
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書								
シリーズ番号	第209集								
編著者名	永井宏幸、鬼頭 剛、古澤 明、株式会社パレオラボ								
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター								
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161								
発行年	西暦2020年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コ ー ド 市町村 遺跡番号		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
きたたんば・ひがしながれ 北丹波・東流	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 おりずたんげちょう・ 下津丹下町・ おりずもりまち・おりずしたまちにし 下津森町・下津下町西		23220 090016		35度 15分 06秒	136度 49分 39秒	2012.10.～ 2018.8.	4,830㎡	街路改良工 事(都)名古屋 岐阜線
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項	
北丹波・東流遺跡	集落・田畑	古墳時代	溝・水田・畑			土師器		「美濃」施印須恵器 人名刻書土器 漆附着須恵器 製塩土器・畿内系土師器	
	集落・官衙	飛鳥～奈良時代	竪穴建物・溝・土坑・流路			須恵器・土師器			
	集落	鎌倉～室町時代	掘立柱建物・溝・井戸			中世陶器・中国磁器・土師器			
文書番号	発掘届出		(24埋セ第75号・2012.9.5、25埋セ第88号・2013.10.9、26埋セ第142号・2015.3.19、28埋セ第131号・2017.3.31、30埋セ第1号・2018.4.4)						
	通知		(24教生第1615号・2012.10.3、25教生第2014号・2013.10.24、27教生第19号・2015.4.7、29教生第178号・2017.4.17、30教生第184号・2018.4.16)						
	終了届・保管証・発見届		(24埋セ第133号・2013.3.22、25埋セ第138号・2014.2.24、27埋セ第36号・2015.7.7、29埋セ第37号・2017.7.3、30埋セ第66号・2018.9.7)						
	監査結果通知		(25教生第161号・2013.4.16、25教生第3180号・2014.3.11、27教生第1110号・2015.7.24、29教生第1347号・2017.7.13、30教生第2161号・2018.9.21)						
要 約	発掘調査は3つの時期にわたる成果を得た。古墳時代前期を中心とする時期は、水田と畑地をともしう生産遺跡である。なかでも水路とした数条の大溝は南北方向を中心に遺跡を縦断する農業用の基幹水路を想定した。奈良時代初頭を中心とする時期は、溝と竪穴建物などとともに大量の遺物が出土した。特に、6点出土した「美濃」施印須恵器は、生産遺跡以外の1遺跡の出土点数としては特筆すべき事例となった。「美濃」施印須恵器は、生産地および生産時期が極めて限定的であったことから『続日本紀』に登場する国司笠朝臣麻呂との関係性が指摘されている。また、漆附着須恵器、製塩土器、畿内系土師器などがまとまって出土していることから、北丹波・東流遺跡は尾張国府域の一角、あるいは官衙関連施設の可能性がある。平安時代末期から鎌倉時代初頭の時期は、北方に隣接する下津北山遺跡との関係性が指摘できる。高台付皿の脚部、白磁の壺底部、方形陶硯など共通する資料群が一般集落と一線を画する。								

第213集 川向東貝津遺跡

奥三河山間部の境川左岸段丘上に立地する後期旧石器時代から縄文時代の集落跡。後期石器時代は尖頭器文化期と細石器文化期の2時期に分けられ、それぞれ石器集中地点が認められる。また、縄文時代中期には4棟、後期には2棟の竪穴建物跡が確認されている。(樋上 昇)



後期旧石器時代尖頭器文化期の石器

報告書抄録

ふりがな	かわむきひがしがいついせき
書 名	川向東貝津遺跡
副 書 名	
巻 次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 213 集
編著者名	樋上 昇・堀木真美子・鬼頭 剛・川添和暁・鈴木恵介・田中 良
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2020 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かわむきひがしがいつ 川向東貝津	あいちけんきたしたらぐん 愛知県北設楽郡 したらちようかわむき 設楽町川向	23561	700348	35 度 06 分 26 秒	137 度 33 分 54 秒	2010.11 ∩ 2010.11 2015.5 ∩ 2015.11 2016.5 ∩ 2016.9	3,950	設楽ダム 工事関連 事業

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
川向東貝津遺跡	集落跡	後期旧石器時代 ∩ 縄文時代草創期	石器集中地点	尖頭器、彫器、 細石刃、細石核	後期旧石器時代で 2 時期の文化期
	集落跡	縄文時代中期	竪穴建物 4 棟、 土坑	縄文土器、石器	石囲炉を有する 遺存状態良好な 竪穴建物
	集落跡	縄文時代後期	竪穴建物 2 棟、 土坑	縄文土器、石器	

文書番号	発掘届出：埋文（22 埋セ第 168 号 / 27 埋セ第 15 号 / 28 埋セ第 1 号） 発掘届出：県教委（22 教生第 1677 号 / 27 教生第 411 号 / 28 教生第 169 号） 完了報告（22 埋セ第 226 号 / 27 埋セ第 88 号 / 27 埋セ第 62 号） 文化財認定（27 教生第 2187 号 / 28 教生第 2178 号）
------	---

要 約	奥三河山間部の境川左岸段丘上に立地する後期旧石器時代から縄文時代の集落跡。 後期旧石器時代は尖頭器文化期と細石器文化期の 2 時期に分けられ、それぞれ石器 集中地点が認められる。 また、縄文時代中期には 4 棟、後期には 2 棟の竪穴建物跡が確認されている。
-----	--

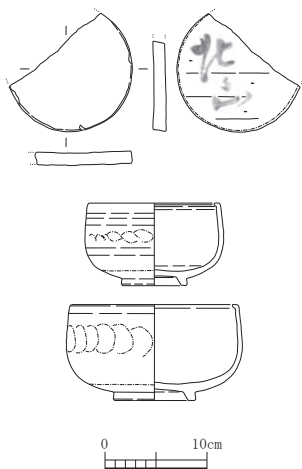
第214集 北山窯跡 勘介窯跡

北山窯跡と勘介窯跡は瀬戸市落合町に所在する窯跡である。発掘調査は、平成27年度と29年度に公益財団法人瀬戸市文化振興財団と当センターにより行われた。遺物の整理作業等は当センターで進め、先に刊行されていた概要報告書の成果と併せて報告書を作成した。

勘介窯の操業期間は16世紀初頭から中葉（大窯第1段階後半～第3段階前半）であり、確認された2基の窯体（大窯）では第1号窯から第2号窯の順の遷移が明らかとなった。北山窯跡は勘介窯の物原等の上に築かれた近代以降の連房式登窯であり、本格的な発掘調査が行われた貴重な事例となった。聞き取り調査では明治35年に創業し、昭和31年が薪を燃料とした最後の窯焚きであったという。（武部真木）



勘介窯跡（大窯, 戦国期）の出土陶器



北山窯跡（連房式登窯, 近・現代）出土の陶磁器

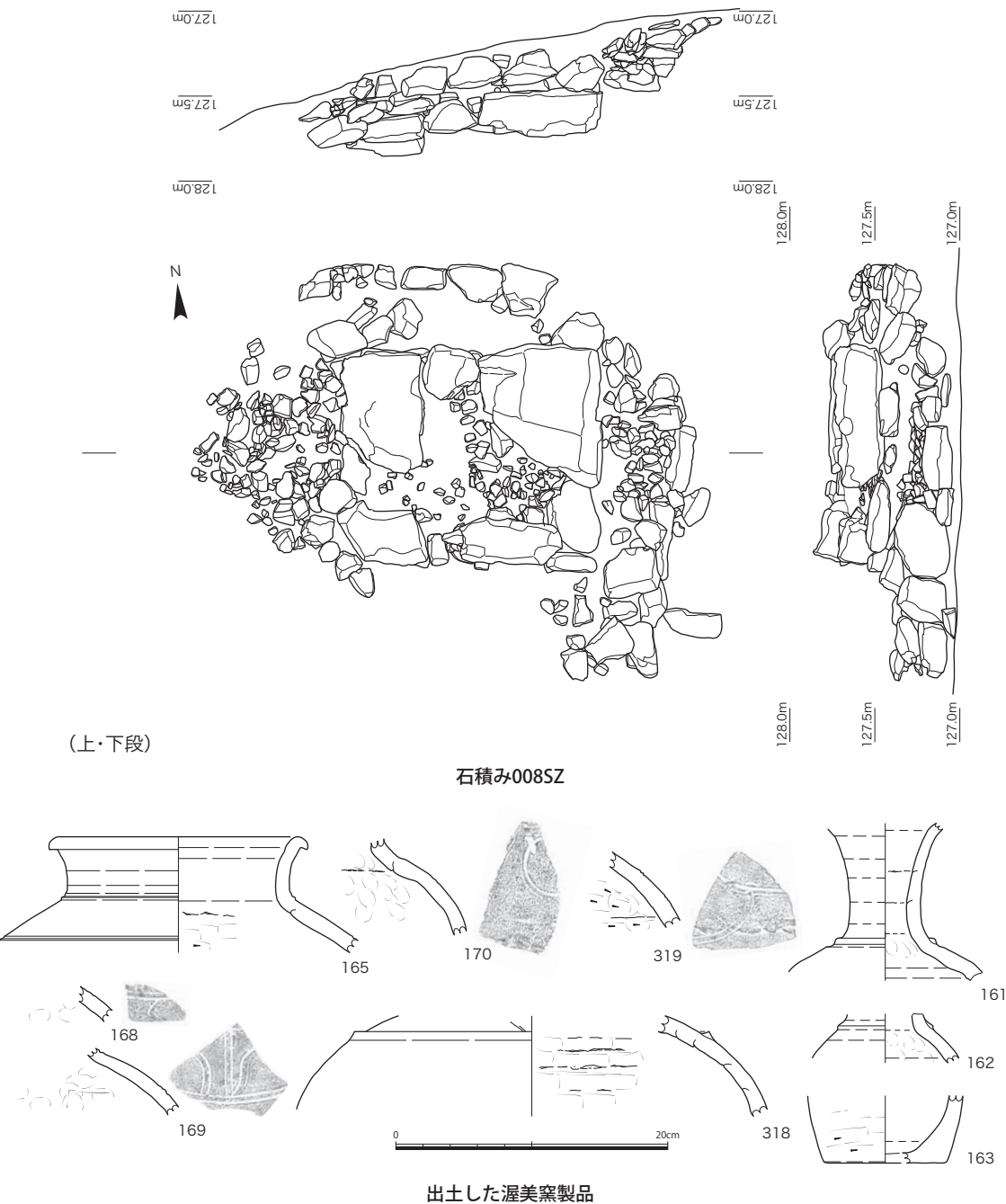
報告書抄録

ふりがな		ほくごんかまあと　かんすけかまあと						
書　　名		北山窯跡　勘介窯跡						
副　書　名								
巻　　次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第214集						
編著者名		武部真木(編)・松澤和人(瀬戸市文化振興財団)・藤根　久,米田恭子(パレオ・ラボ)						
編集機関		公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　　TEL 0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2020年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村　遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ほくごんかまあと 北山窯跡 かんすけかまあと 勘介窯跡	あいちけん　せとし 愛知県瀬戸市 おちあいちょう 落合町	23204	030970 030408	35度 15分 07秒	137度 07分 35秒	2015.08.～09 2015.10. ～2016.03 2017.05	290	急傾斜地 崩壊対策 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
北山窯跡	窯跡	近代・現代	窯体(連房式登窯1基) 物原		磁器(碗,湯呑,皿類) ・陶器(植木鉢,鉢類) ・窯道具		近代連房式登窯の 貴重な調査事例 (北山窯跡)	
勘介窯跡	窯跡	戦国	窯体(大窯2基) 物原		大窯製品(天目茶碗, 皿類,搗鉢,筒形容器ほか) ・窯道具		落合城跡(中世城館) 推定地に近い窯跡 (勘介窯跡)	
文書番号		発掘届出 (27瀬文振第1050-8号,2015.7.1/29埋セ第5号,2017.4.7) 通知(27教生第1231号,2015.7.1/29教生第250号,2012.4.18) 終了届・保管証・発見届 (27瀬文振第1050-17号・27瀬文振第1050-18号・27瀬文振第1050-19号,2018.3.11 /29埋セ第22号,2017.5.31) 鑑定結果通知 (27教生第3287号・27瀬文第698号,2016.3.31/29教生第955号,2017.6.14)						
要約	勘介窯跡は、瀬戸市北部の水野川右岸丘陵地に位置し、標高175m前後の南斜面に立地する戦国期の窯跡である。調査により2基の大窯の窯体の一部と、これに伴う灰原を確認した。それぞれの操業期間には時期差がみられ、勘介1号窯は大窯第1段階後半から第2段階前半(16世紀初頭から前葉)、勘介2号窯は大窯第2段階後半から第3段階前半(16世紀中葉)を主体とする時期と考えられる。 北山窯跡は創業が明治に遡ると伝えられる近・現代の連房式登窯である。常滑窯産土管を利用した煙道部など、最終段階の構造の一端が明らかとなった。連綿と続いてきた窯業地ではむしろ希少な資料であり、百年ほどの昔の事柄はすでに不明瞭となっている部分も少なくない。							

第216集 普門寺旧境内

普門寺旧境内は中世前期を主体とする山寺遺構で、愛知大学による分布調査、豊橋市教育委員会による測量調査・分布調査、発掘調査の結果、2つの本堂跡とそれに付随する多数の平場群、さらにその周囲の巨岩、中世墓群、経塚によって構成されることが判明している。

山麓付近の平場に重複する17A区の発掘調査においては、戦国時代以降の断続的な平場の利用を確認した。丘陵斜面下位の平場群に重複する17B区の発掘調査においては、中世前期と中世末から戦国時代における平場の利用、近世における墓と思われる石積みの構築を確認した。平場群間の沢の立会調査においても、中世前期を主体とする遺物が大量に出土した。（早野浩二）



報告書抄録

ふりがな		ふもんじきゅうけいだい						
書 名		普門寺旧境内						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第216集						
編著者名		早野浩二・鬼頭 剛						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2020年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ふもんじきゅうけいだい 普門寺旧境内	あいちけん とよはし 愛知県豊橋市 うのやちようあぎ やました 雲谷町字ナベ山下 7ほか	23201	790481	34度 44分 40秒	137度 28分 10秒	2017.05.01～ 2017.12.27	300	予防治山 事業・ 小規模 治山事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
普門寺旧境内	寺院跡	平安時代 鎌倉時代 室町時代 戦国時代 江戸時代	平場 平場 平場 平場 平場、通路状遺構 遺物集積、土坑、 石積み	灰釉陶器、山茶碗 山茶碗、渥美窯製品、 常滑窯製品、 瀬戸・美濃窯製品、 初山窯製品、 中国陶磁、土師器、 瓦、 銭貨、金属製品、 石硯			普門寺旧境内は、中 世前期を主体とする 山寺遺構である。2つ の本堂跡を中心とし て展開する250か所 程度の平場群の一部 と山麓付近の平場の 一部を発掘調査した。	
文書番号	発掘届出(29埋セ第4号・2017.4.5) 通知(29教生第204号・2017.4.17) 終了届・保管証・発見届(29埋セ第106号・2018.1.5) 鑑定結果通知(1豊教美第458号・2019.12.19)							
要約	普門寺旧境内は中世前期を主体とする山寺遺構で、愛知大学による分布調査、豊橋市教育委員会による測量調査・分布調査、発掘調査の結果、2つの本堂跡とそれに付随する多数の平場群、さらにその周囲の巨岩、中世墓群、経塚によって構成されることが判明している。 山麓付近の平場に重複する 17A 区の発掘調査においては、戦国時代以降の断続的な平場の利用を確認した。丘陵斜面下位の平場群に重複する 17B 区の発掘調査においては、中世前期と中世末から戦国時代における平場の利用、近世における墓と思われる石積みの構築を確認した。平場群間の沢の立会調査においても、中世前期を主体とする遺物が大量に出土した。							

